

平和をありがとう

古堅小学校 五年三組 末吉 琉夏

ぼくは、一年に一回ぐらい悲しい一週間が
あります。それは、慰霊の日と後の火曜日か
ら金曜日です。戦争が終わった後、死んでし
まった自分もこわいし、亡くなられた人々の
家族や友達他に、もう二度と楽しい事が出来
ないつらさなところさえきれない人もい、ば
いいます。なのに、ぼくは、一年生のころ願
いごとでは、ふさげたりしていたので、惜けな

いと思いました。でも、高学年になり、戦後
兵隊などの話を聞いたらどんなに死者がでる
かまで分かりました。聞いた話によると、
どこ見ても死体があった。と言っていたとき
は、びくくりしました。
なぜなら、そこには、簡単に殺された人が
見えているからです。だから、こわかったで
す。
みなさんは、もくとうをしましたか。ぼく
は、いろんなつらさの願いと心を受けとめ、

南の向かつてもくとうをささげました。なぜかは、糸満で多くの死者がいたからです。ぼくは戦争がなかったら、こんなことにならなかったか。たと思うけど、始まって終わらしかたないだけです。

もし、ぼくが戦争の時代に産まれたときの兵隊だったら、こわくて、想像も出来ません。そして、お母さん、お父さん、妹、悲しいと思います。

でも、ぼくは、なぜ戦争をしたんだらうと思います。なぜ、やろうとしたのだらうと思います。なぜ、います。

今は、ご飯も食べられる、洋服も着られる。ぐっすり眠ったり、勉強も出来ます。それどころか戦争は、こんな平和をひとのみで、死者が出たり、兵隊は眠れなくなったり、家族に会えなく、いいことは全々ありません。だからぼくは、今ここに育ち、生きていることに、お母さんお父さんに感謝したいです。

なぜなら、ぼくを産んで「琉夏」と由来ま

でちゃんとか大切にしてくれただからです。
そして、おばあちゃん、おじいちゃんの中
で産まれてきた、お母さん、お父さんみんな
に感謝したいです。

なぜなら、お母さんが産まれたから、ぼく
がここに育っていることがたからです。

毎日のように、おいしいご飯を食べられた
り、この平和をうばわれたくありません。戦
争はしたくないです。空から見守っている人
々や、お母さんお父さんありがとうございます。

て感謝したいです。平和をありがとう。